

読者のお便りから

○毎回感動しつつ読ませていただいています。新島先生はじめ、諸先生方の言葉を、挨拶や手紙など、さまざまな場面で使わせていただいています。(三重県・矢守 隆)

○時報の存在を初めて知りました。読んでみて充実の内容です。私のもとに毎月『早稲田学報』が送られてきますが、その質・量に感心。『時報』も決してひけをとらないと思います。ただ大学広報誌『ONE PURPOSE』ほど知られていないので、宣伝する必要があると思います。(北海道・浜村光久)

○田中真人教授の紀行(一一三号掲載)、大変楽しく読ませていただきました。ところどころで一八八四年の新島先生の旅行では、当時七歳であったヘルマン・ヘッセがバーゼルで先生と会っているのです。最初に会った日本人ということではヘッセも終生懐か

しんだとのことです。(栃木県・赤松 龍)

○前号で女子大学学芸学部に情報メディア学科ができたとの記事を読みました。同志社大学より同志社女子大学のほうが新しい時代の学部、学科をつくっているように思えます。大学の卒業生としては少し残念。(長野県・間瀬敏彦)

○忙しい時の中に、ゆつくりとこの一冊を手にすることはうれしいことです。周りにもこの本を読むことを楽しみにしている方がいます。松山に同志社の風を運んでくれるからです。古い同志社、新しい同志社、そしてひろがりをもつ同志社を伝えるものにしてください。(愛媛県・小池ミチ子)

○時折届く京都・母校の便り、楽しませていただいております。毎回掲載されている座談会が若干冗長のような気がします。卒業生の活躍も取り入れたらどうでしょうか。(東京都・関 隆治)

※敬称略

Neesima Room企画展

『同志社山脈』の世界 展のお知らせ

今秋、同志社が刊行する『同志社山脈ー113人のプロフィールー』(晃洋書房)の出版を記念して、同書で取り上げた同志社関係者の写真や資料などを展示しております。なお、会期中11月3日から30日までアーモスト大学ジョンソンチャペルの有名な新島襄肖像画を特別展示いたします。日本初公開です。

- 〈期 間〉2002年10月1日(火)ー2003年2月28日(金)
- 〈時 間〉9:30ー17:00 (土曜日は正午まで、日曜日は10:00から)
- 〈会 場〉Neesima Room (大学今出川校地・ハリス理化学館2階)
- 〈閉室日〉祝日、11月29日、12月25日ー1月5日
- 〈申 込〉事前申込不要・入場無料
- 〈お問い合わせ先〉同志社社史資料室 Tel. 075-251-3042



同志社理事・新渡戸稲造と妻・メリー (萬里子)